

浮世絵で学ぶ お江戸子育て

1986年から子ども文化の研究のために、
子どもに関連する浮世絵や文化史料の収集と
研究を続けている公文教育研究会。
広報部の吉澤 明さんに、浮世絵から読み取れる
江戸の子育て事情を教えてください。

東都七福詣の内 日暮 布袋

歌川貞虎 天保頃 (1830-1844)

丸い「こま絵」は七福神の布袋を祀る日暮里の修性院
と思われます。縁側には水を絞った洗濯物がたらい桶
のそばに置いてあり、母は洗濯の途中で背中の子ども
をあやしむながら洗濯桶の水面をのぞき込んでいます。
麻の頭巾をかぶった子は、母の背中越しに水面に映る
母と自分の顔を見て、大喜びで手を振っています。

おんぶ

日本の伝統的な 育児法である「おんぶ」

最近、スマートな子育てイメ
ジもあって「抱っこ紐」を使い外
出をされる方が多く見られます
ね。それに比べて「おんぶ」をす
る姿はあまり見なくなつたように
感じています。

「おんぶ」という呼び名は子ど

もを背中に背負うことを意味す
る幼児語にあたるようで、外出
時でも家事をしながらでも日常
と変わらず両手を自由に使うこ
とができ、子どもをあやしむた
り、寝かしつけることができる日本の
伝統的な育児法です。その歴史
は極めて古く、栃木県の古墳か
らも子どもを背負う埴輪が出土
されているということを本で読ん
だことがあります。

「おんぶ」は親子の コミュニケーションの時間

江戸から明治にかけて子守奉
公（こもりぼうこう）という仕事
や、日常でも年上の子どもが「お
んぶ紐」を使い、親の代わりに弟
や妹をあやしむながら遊ぶ姿が浮
世絵や古い写真には残されていま
す。当時、ゆりかごなどの道具
を用いた子育てが主流の欧米人
の目には珍しく映ったせいか、明
治初頭に日本を訪れた外国人の
旅行記に「おんぶ」の様子が散
見されます。

子どもは五感の中でも視覚か
ら得る情報が大きいため、日本の
伝統的な育児法の「おんぶ」は背
中越しに常に新鮮な刺激があり、
親子で同じ世界を見ながらコミュ
ニケーションを図るため知的的好
奇心も育てられるようにしていま
す。明治に來日して大森貝塚を
発掘し、日本の考古学、人類学
の礎を築いた米国の動物学者E.
S. モースも、大人たちの仕事を
背中越しに常に眺められる日本

日本の
伝統的な子育て事情を
お伝えすることで
現代の子育てを応援します

KUMON
×
Happy-Note

江戸ミニ知識

浮世絵の母子から感じる温かさは どこから生まれるの……？

浮世絵の母子絵には母と子が同じものを見ながら語り合う場面が多く見
られます。精神科医で精神分析家の北山修氏は浮世絵の母子絵を通して、
母と子が触れ合い、共に同じものを見ながら、思いを通わせることで情緒
的に安心感のある関係が育まると説いています。「おんぶ」をすれば背
中越しに様々なものを一緒に見ながら話も弾みそうですね。

の育児法に注目し、評価してい
ました。今一度、日本の伝統的な
「おんぶ」を見直してもいいので
はないでしょうか。